# 胸部の違和感を訴える患者さんの不安を携帯型心電計によって解消できた例

ゆみのハートクリニック渋谷　鮫島 光博 院長

## 症 例

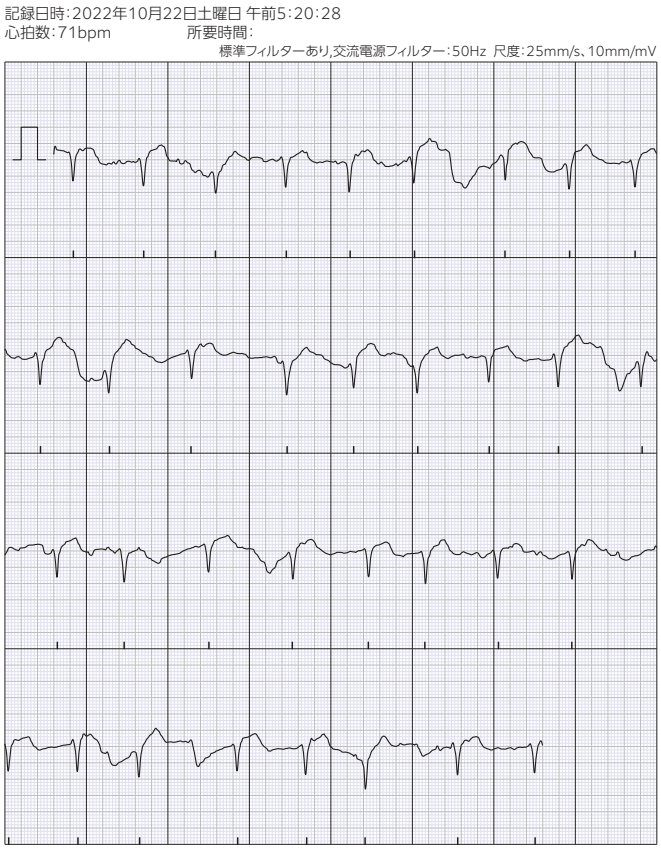
**症　例**：30歳代、女性
**主　訴**：胸部の違和感
**既往歴**：フォンタン術後の成人先天性心疾患、軽度の知的障害あり
**現病歴**：重症心不全管理にて訪問診療

## 携帯型心電計の使用

患者さんは先天性心疾患のために幼少時から手術を繰り返していた。現在も重篤な心不全を抱えており、日常生活にも支障をきたしている。また、軽度の知的障害を有しており、母親が付き添って介助しているが、気になることがあると何度も母親を呼ぶことで、母親もストレスを感じていた。

2022年10月のある朝、胸部違和感の訴えがあるとのことで緊急往診。身体所見、心電図には異常は認められなかった。母親から「今朝は訴えが強かったが、実は以前から度々このようなことがある」と聞いている。「自分で異常がないことを確かめれば安心するのでは」と考え、オムロンヘルスケア社製携帯型心電計の貸し出しを提案した。好奇心が旺盛であり、また自分のスマホを所有できる嬉しさもあり、患者さんも積極的に受け入れ、軽度の知的障害はあったものの、操作方法は容易に習得することができた。

患者さんは5日間に5回記録しており、解析結果の内訳は5回とも「心房細動の可能性」であった。元々の心臓の器質的変化と慢性心房細動を有しており、wide QRSの心房細動の所見は以前と変わらぬ結果であり、特に危険な致死性不整脈は認められなかった。異常がないことを患者さんご自身で確認し、私からも説明したことで、患者さんと母親は安心感を得て、結果として胸部違和感の訴えも減っていった。




解析結果：心房細動の可能性

## 考 察

この事例は胸部の違和感に対して、治療不要な不整脈は出ていないということを、自分が気になったタイミングで、自分自身の操作で確認することができ、不安の解消につなげることができたことに意味があると考えている。